

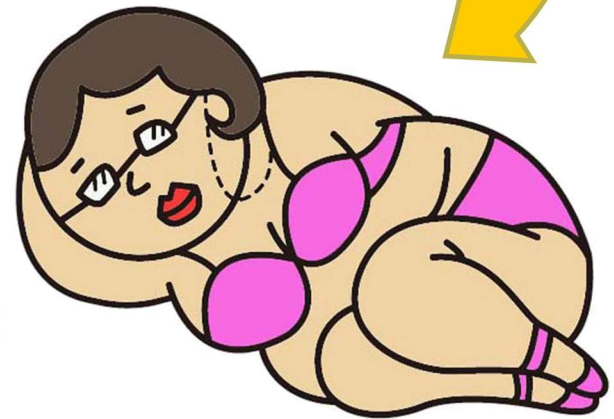
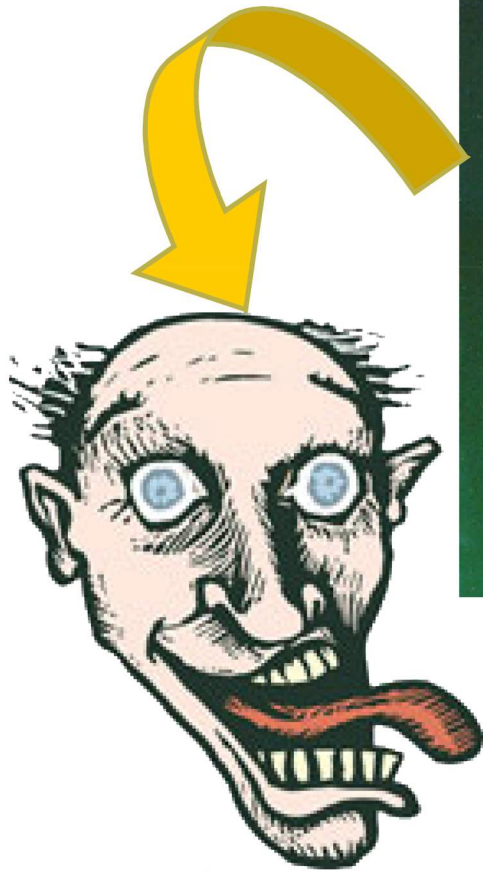


NPO法人市民社会研究所 設立前史と設立後5年間の歩み

2010年5月22日



SSKの始まりは 2人の出会いから



2004年3月
伊賀の県民局
で出会いました

2004年7月21日

SSKはどうやってできたか

「NPOからの協働事業提案」(三重県)

提案:「共生社会基盤づくり事業」

2004年4月
イラク日本人
人質事件
への反応

ファシズムの恐怖





即日採択！



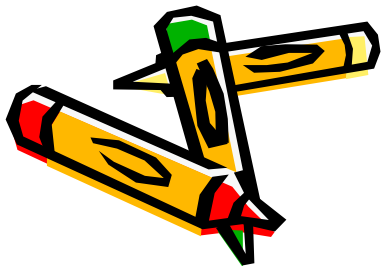
は頭が真っ白になりながら
プレゼンをしました。

申請10件中トップ当選(2件採択)



SSKの出発点は**人権**です

- ・ 異質な考え方を排除しない社会
- ・ 自分の意見を率直に出せる社会
- ・ 権威や多数意見に流されず、
自分の頭で考え、発言し、行動する人で
構成される社会



スローガン
市民が育つ 社会が変わる

2004年9月 市民社会研究所の名を決定

「SSK」は意外に定着しました
本当はCivic Institute for Civil Society

2004年10月 四日市大学内に事務所を置くこと が認められる



2004年11月27日

設立総会

★オープニングイベント

「世の中おかしい！ 激辛トーク」

【出演者（理事・監事）】

- ・ 松井真理子
- ・ 中崎百合子
- ・ 青木 東彦
- ・ 金 憲裕
- ・ 福本 悦子

共通点 : つまようじ



当日参加していたのが、「SSKに最も貢献した会員」の
皆川さん、坂口さん、（山本さん）でした。

定款に掲げたSSKの目的

第3条

この法人は、ひろく市民及び市民社会と関係をもつ者に対して、市民自らが主体となる市民社会の発展に関する調査研究や、学習・討論・研修の場の提供等の事業を行い、もって市民社会の健全な発展に寄与することを目的とする。



SSKの会員制度

1 市民研究員(正会員)

現在20人

- ①性格 : 市民社会の発展のため行動する者
- ②任務 : SSKが行う事業への参画

2 専門研究員(正会員)

現在11人

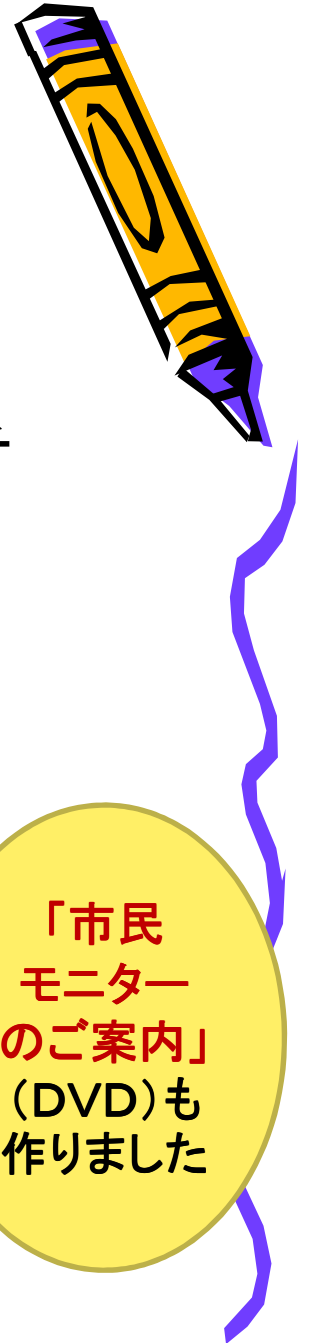
- ①性格 : 高度な専門的知識を市民社会の発展のために提供する者
- ②任務 : SSKが行う各種事業への協力

3 市民モニター(準会員)

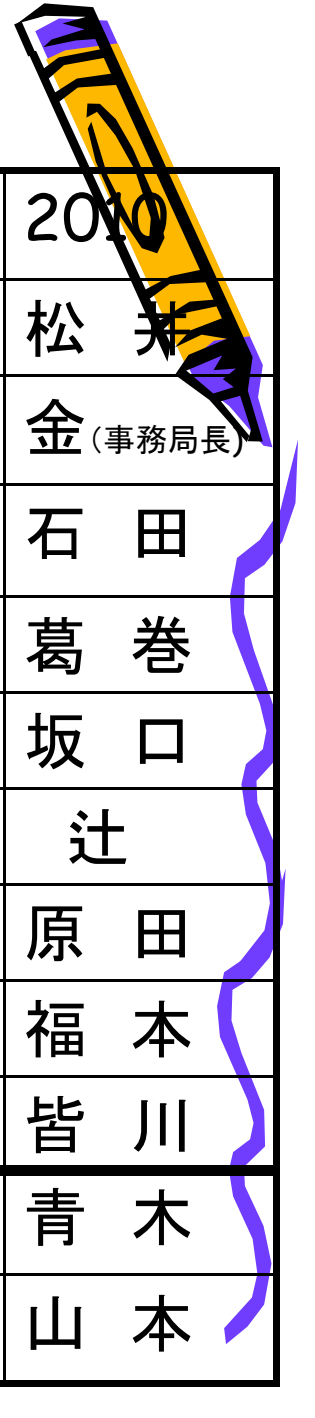
現在130人

- ①性格 : SSKの目的に賛同する者
- ②特典 : SSKのML、会員掲示板への参加

「市民
モニター
のご案内」
(DVD)も
作りました



SSK役員の変遷

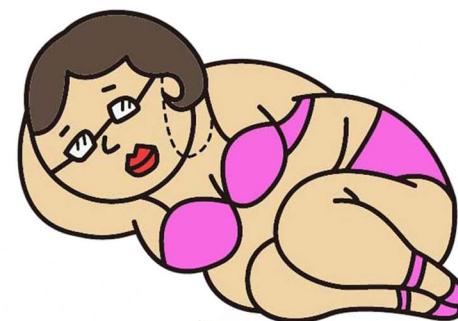
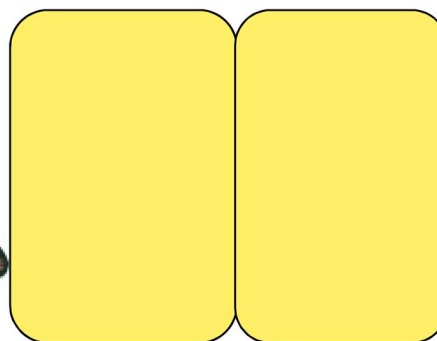
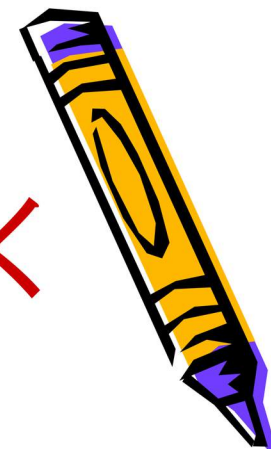


	2005	2006	2007	2008	2009	2010
代表	松 井	松 井	松 井	松 井	松 井	松 井
副代表	坂 東	坂 東	金 (事務局長)	金 (事務局長)	金 (事務局長)	金 (事務局長)
理事	金 (事務局長)	金 (事務局長)	安 達	安 達	石 田	石 田
理事	中 崎	中 崎	石 田	石 田	辻	葛 巻
理事	福 本	福 本	辻	辻	原 田	坂 口
理事			中 島	中 島	福 本	辻
理事			原 田	原 田		原 田
理事			福 本	福 本		福 本
理事						皆 川
監事	青 木	青 木	青 木	青 木	青 木	青 木
監事				山 本	山 本	山 本

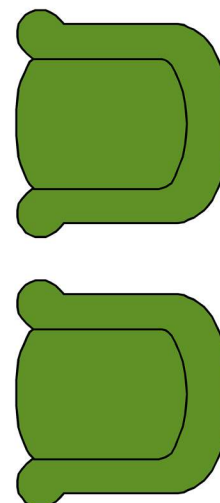
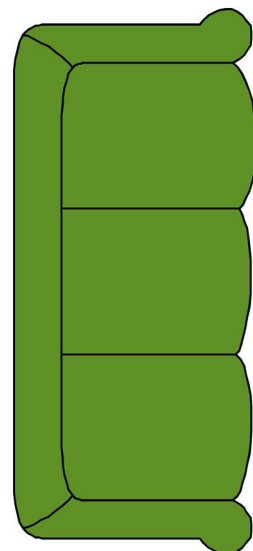


2004年12月 四日市大学内に事務所を置く

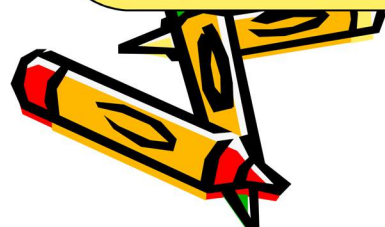
(コンピュータがつながったのは2005年1月)



年中お客さん
にお茶を出し
ていたので
「バーテン」と
呼ばれて
いました



当時は
暇だったので
おしゃべりに
来る人が
多かったです



2005年1月5日 ホームページ開設



初めての
HP作りは
イライラの
連続でした

2010年5月22日現在のアクセス数は

約18万4千件(1日平均約90)

「SSKのHPを見ている」という声をよくいただきます



ホームページの一番人気 市民社会川柳

投稿の常連

吉武 坂東 清嶋
太田 松井 金
ポケヨン、奥村、斜視人

会員が選んだベスト1

- 2005 雑談になって本音の出る会議(吉武)
- 2006 改革もトップ替われば負の遺産(松井)
- 2007 うっかりと出る失言という本音(吉武)
- 2008 宰相になるからバレた漢字力(松井)
爺ちゃんだけ早寝早起き朝ごはん(吉武)
- 2009 悪政のルーツたどれば有権者(吉武)
祝われる人しかいない敬老会(坂東)



2005年1月22日

最初の仕事

四日市市民自治基本条例案の学習会

(2005年3月議会で議決)



2005年1月27日 市議会議長へ意見提出

(自主的パブリックコメント)

* 市民と議会の連携の提案

* 個別の条文への意見

(特に協働のしくみの具体化について)

この5年間
一貫して
取り組んで
きました



2005年2～3月 代表がイギリス留学で不在



は英語でイギリスに電話をかけて
代表を呼び出し、連絡を取り合う

2005年3月12日～19日

「イギリスの市民社会を学ぶ旅」

11名の珍道中でした！

2005年2月4日～3月31日

現地レポート「イギリスの市民社会」



充実したSSKの研修旅行

2005 イギリスの市民社会を学ぶ旅

(3月12日～19日)

2006 韓国の市民社会・交流の旅

(9月13日～16日)

2007 沖縄の市民社会・交流の旅

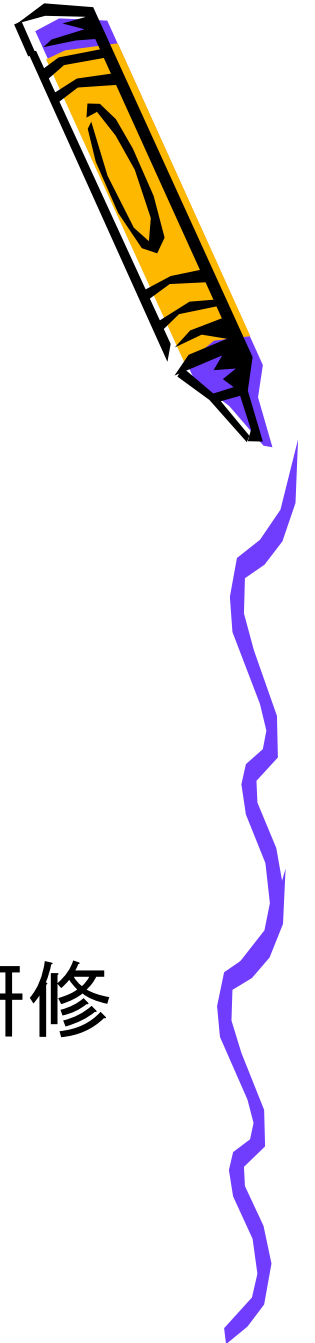
(8月29日～31日)

2008 信州・ビジネスによるまちづくり研修

(8月20日～22日)

2009 富士山・文化とディベート研修

(8月20日～22日)



イギリス旅行の訪問先自治体の マークに影響されて SSKのマークを作りました



設立当初



労働組合のよう
でイヤだという声
が出てきて...

2008年
6月8日変更

現在



小さい歯車は市民。大きい
歯車は社会。小さな市民の
力が社会を変えていく。

「市民が育つ」。SSKの「S」
が「若葉」と「無限大」を表現

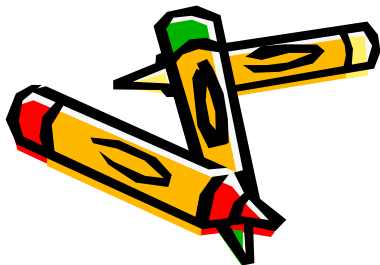
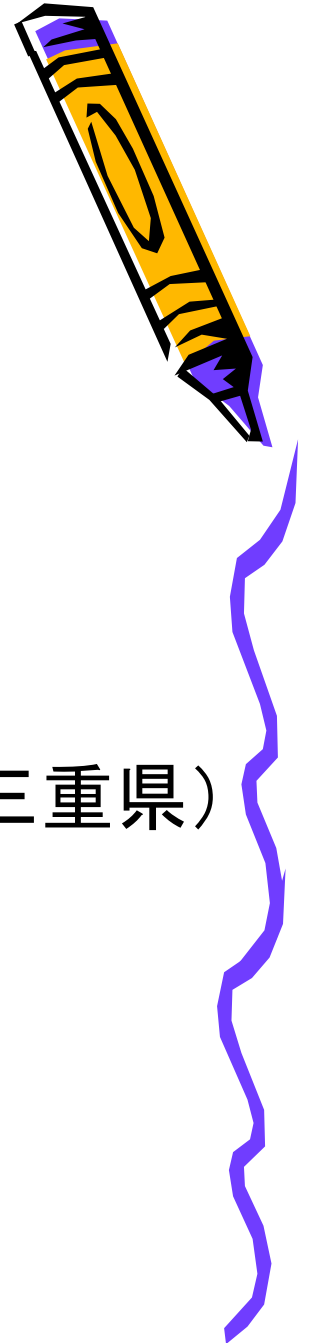
2005年4月1日

NPO法人格取得

～本格的な活動開始～

2005年度の主な事業

- ・市民共育道場
- ・市民が主体となった人権啓発のあり方研究(三重県)
- ・「新しい時代の公」県民円卓会議(三重県)
- ・市民参加の職員研修(三重県、四日市市)
- ・四日市NPOセクター会議の設立
- ・なやプラザ指定管理申請・準備



2005年度の思い出

- ・ 初年度から三重県からの委託事業が多くこれが最初の基盤づくりになった。
- ・ 「『新しい時代の公』県民円卓会議」で全県下をまわった。→ 住民自治（自治会とNPOとの連携）という、今でも新鮮なテーマ
- ・ NPOセクター会議を周到に立ち上げた。
- ・ 「くだまきサロン」を5～7月毎月実施していた



石田さんの衝撃の横笛デビュー！

2006年度の主な事業

- ・ 人権文化の担い手塾スタートアップ事業

(三重県)

- ・ シニアまちづくり人材養成講座(内閣府)
(人財ポケット設立)
- ・ 四日市NPOセクター会議・市民協働研究会
スタート
- ・ なやプラザ指定管理スタート
- ・ 「市民がつくる市民社会川柳」発行
- ・ 四日市市民大学「地域づくり入門コース」



2006年度の思い出

- ・ 人財ポケットの立ち上げに成功した。
- ・ 市民協働研究会により、井上市長（当時）に市民協働促進条例づくりの提言書を提出

＊この時の中心人物、水谷優志市議会議員は翌年5月死去

市民社会川柳「訃報聞く良いも悪いも生きてこそ」（金・松井）

- ・ なやプラザの指定管理はスタッフに恵まれ、順調な滑り出し

・ SSK東京連絡所設置



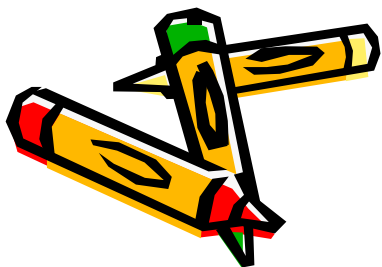
2007年度の主な事業

- ・ 市民共育道場
- ・ 日本語ボランティア養成講座(文化庁)
- ・ 人権文化のまちづくりスタートアップ事業(三重県)
- ・ 「市民のラジオ」「ポケットラジオ」スタート
- 人財ポケットの運営
- NPOセクター会議・市民協働研究会
- なやプラザの指定管理
- 四日市市民大学
- 「地域づくり入門コース」「子どもの人権」



2007年度の思い出

- ・ 人権文化のまちづくり事業のテキストを作るのに疲れた。
- ・ 四日市市常磐地区の人権学習調査のため、約20回地区内をまわった。
- ・ 初めての日本語ボランティア養成講座



2008年度の主な事業

- ・ 市民共育道場
- ・ 日本語ボランティア養成講座(文化庁)
- ・ 共育ディベート大会
- ・ 市民によるラジオ劇(市制111周年事業)
- ・ DVD教材「まちづくりの達人」
- ・ 市民活動フェスタ(市制111周年事業)
- ・ 人財ポケットの運営・チャリンコフェスタ(111周年事業)
- ・ コミュニティビジネス支援モデル事業(三重県)
- ・ 日英NPO交流(国際交流基金)
- ・ 四日市NPOセクター会議・市民協働研究会
- ・ なやプラザ指定管理・次期申請
- ・ 四日市市民大学「地域づくり」「障害者の人権」
- ・ パブリックコメント研究



2008年度の思い出

- ・ 四日市市制111周年記念事業が盛りだくさんだった。

「ラジオ劇」

「チャリンコフェスタ」

等新しい分野に挑戦

- ・ 「コミュニティビジネスの中間支援」という新しい分野に進出

・ NPOセクター会議と市長候補者との政策協定で伊勢新聞の攻撃の的に



2009年度の主な事業

- ・ 市民共育道場(新聞で学ぶ会)
- ・ 共育ディベート開発・ディベート大会
- ・ 日本語ボランティア養成講座(文化庁)
- ・ 人権教育・啓発推進プログラム作成(四日市市)
- ・ 四日市市民人権意識調査(四日市市)
- ・ 企業のワークライフバランス調査(四日市市)
- ・ 自治体とNPOとの関係に関する日英比較調査
(全国市町村国際文化研修所)
- ・ 人財ポケットの運営
- ・ 四日市NPOセクター会議・市民協働研究会
- ・ せせがら指定管理(第二次管理・5年間)
- ・ 四日市市民大学「暮らしの中の人権」

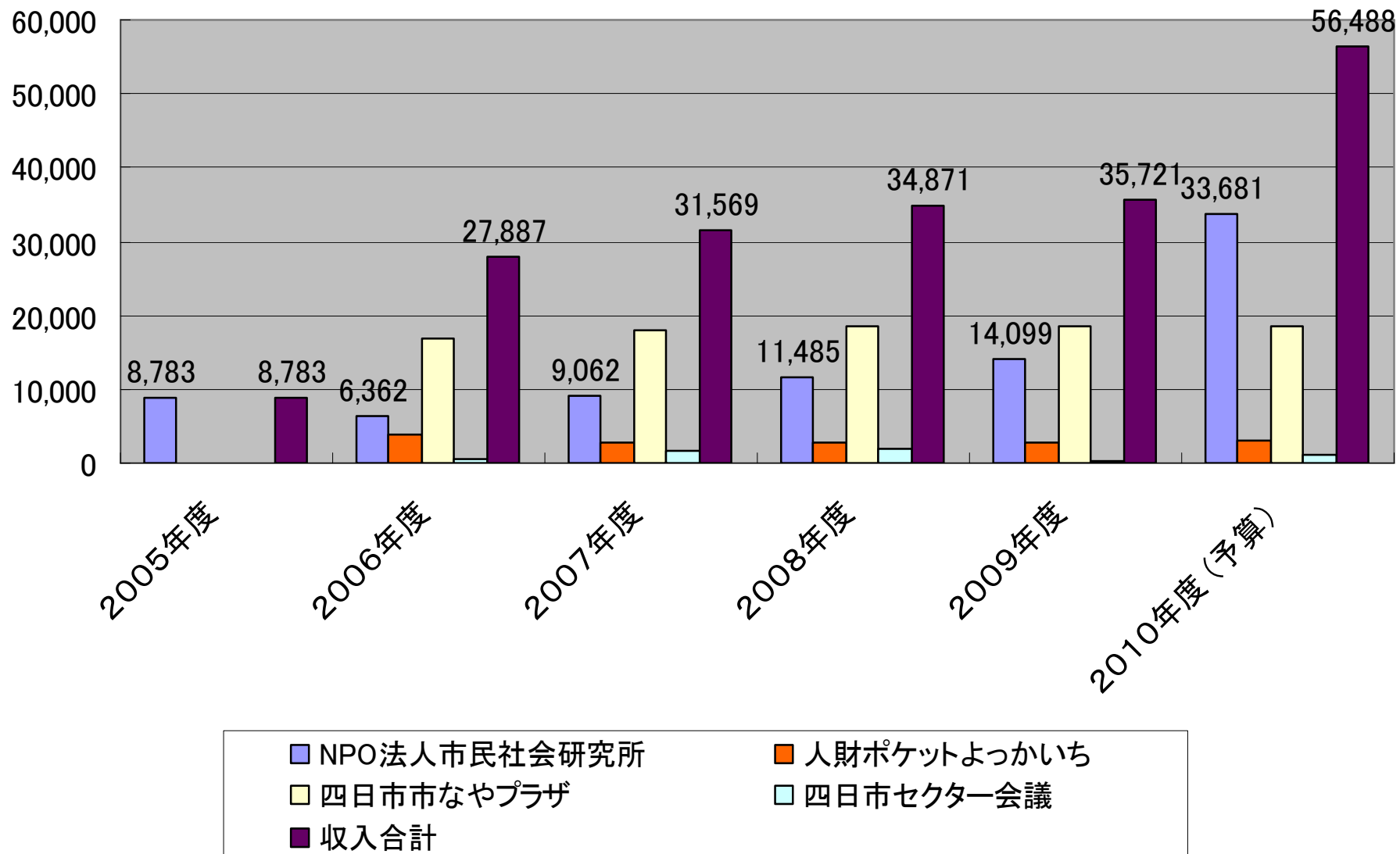


2009年度の思い出

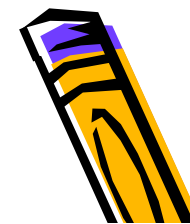
- ・ 調査が多かった→SSK調査室を設置
四日市市民人権意識調査(4,000件)
全国NPO調査(15,000件)
ワークライフバランス調査(200件)
- ・ 「新聞で学ぶ会」が定着
- ・ 引きこもり等の若者サポート事業に進出
- ・ 若者サポートとコミュニティビジネスを結び
つける提案で、3名の雇用を確保



事業規模の推移



スタッフの変遷



	2005	2006	2007	2008	2009	2010(予定)
代 表	松 井	松 井	松 井	松 井	松 井	松 井
事務局長	金	金	金	金	金	金
スタッフ	福本(9月~)	福 本	福 本	隈 元	隈元(~12月)	小 林
//					小 林	近 藤
//					牧野(9月~)	藤 川
//						牧 野
//						(新規採用 予定)
//						(新規採用 予定)



注) なやプラザスタッフ(約10名)は別途雇用

5年間のSSKの調査研究(1)



【自主研究】

- 1 市民のためのパブリックコメント研究 (2007年5月～)
- 2 NPOと行政との契約におけるフルコストリカバリーの研究
(2006年1月～)
- 3 NPOの自立基盤比較研究(2007年1月～2009年3月)
- 4 コミュニティビジネス中間支援モデル構築事業
(08年6月～09年2月)
- 5 共育ディベートのあり方研究(2009年8月～2010年3月)
- 6 自治体のNPO施策に関する日英比較調査
(2009年9月～)



5年間のSSKの調査研究(2)

【委託研究・調査】

三重県委託

1 市民が主体となった人権啓発のあり方研究

(05年6月～06年3月)

2 人権文化担い手養成プログラム開発(06年7月～09年3月)

木曽岬町・名張市美旗地区委託

3 人権アンケート調査 (08年11月～09年3月)

四日市市委託

4 人権に関わる市民団体に係る調査(08年12月～09年3月)

5 人権学習・啓発のあり方に関する調査(09年1～3月)

6 四日市市民人権意識調査(09年9～12月)

7 企業におけるワークライフバランス取組調査(09年10～3月)



5年間のSSKの調査研究(3)

【研究発表】

1 第8回日本NPO学会(新潟) 06/06/04

(1) NPOセクター会議の創設について一セクターとしての力量向上
のための新たな中間支援形態

(2) NPOと行政との契約における積算のあり方について

2 NPO活動推進自治体フォーラム佐賀大会 07/11/1

契約の分析と積算根拠の標準モデルの可能性

3 第10回日本NPO学会(中央大学) 08/03/16

NPOと行政の契約の実態及び積算の標準モデルの可能性

4 第11回日本NPO学会(名古屋大学)

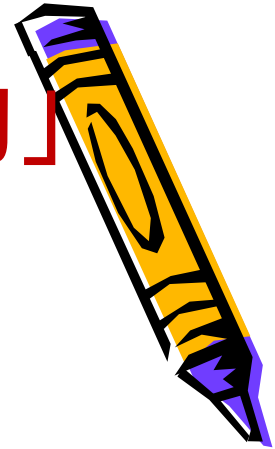
NPOの資金政策の方向性

09/03/21



5年間で構築したSSKの「売り物」

- ・ 市民共育道場（新聞で学ぶ会）
- ・ 共育ディベート
- ・ 「人権の基本」「人権のまちづくり」
- ・ 人財ポケット
- ・ NPOセクター会議
- ・ 多様なスタッフが支える「温かいなやプラザ」
- ・ 研究と実践（フルコストリカバリー研究等）
- ・ 若者サポートとコミュニティビジネスの連結
- ・ インターネットラジオ
- ・ 毎日更新のHPと市民社会川柳



SSKの今後の発展方向

- ・ コミュニティビジネスの開発支援
 - ① 四日市NPO百貨店
 - ② 貨物鉄道と産業発展史学習列車
 - ③ 人財ポケット等によるCB支援
- ・ 若者サポート事業
- ・ 四日市大学との連携強化
- ・ 地域リーダー、市民の体系的な市民教育システムと教材づくり



SSKの今後の発展方向

ワークショップで一緒に考えてみましょう

